

KAGAWA アンバサダーからのお便り～飛鳥童さん～

カナダ・トロントでの40年間の創作・出版活動に一区切りをつけて2019年に帰国して4年が経ちました。

帰国早々の年末に神戸の「異人館」近くのフローラ・アーティストギャラリー経営者・萩原千恵子様からのお誘いで「絵本作家・飛鳥 童展」を開催しました。展覧会開催直前には当時神戸市東須磨小学校の先輩教師が若い教師に激辛カレーを食べさせて虐める事件が連日マスメディアを賑わし、大きな社会問題になっていました。そんな時萩原様から「飛鳥さん、東須磨小学校へ行って傷ついた子どもたちにお話をさせていただきませんか？」の依頼を受けました。私も教師同士の虐め事件に心を痛めていたので承諾しました。ところが学校側はマスメディア対策に大童で、第三者の立ち入りは禁止されていました。それにもかかわらず萩原様は電話では埒が明かないので、直接学校に出向いて根気強く交渉をして下さり、その熱意が実って展覧会オープニングの日に萩原様と一緒に東須磨小学校を訪ねました。そして4、5、6年生を対象に90分間お話をし、前半は私がカナダ、アメリカで新刊書が出版される度に学校から招かれて子どもたちにお話をした体験談を話し「北米の学校は1クラスに世界中から移住してきた肌の色も、言葉も、食べ物も、習慣も違ういろいろな子どもたちがお互いに助け合い、みんな仲良くしています。みんながそれぞれ違って当たり前なんだよ！」という言葉伝えました。そして後半は私の絵本の作品を観ていただき、話が進むに連れて子どもたちから笑顔が見られたのでホッとしました。講演の後、校長室で校長から「実はあの事件以来、私達は何処からも連絡がなくなり孤立していました。今日は飛鳥さんのお話を聞いて子どもたちから笑顔が見られたので感謝します。」と喜ばれ、事件以来第三者が学校内に入れたのは私達が初めてで、学校訪問が実り安堵しました。

神戸展を契機に萩原様と「Global Tree」（子どもたちの輝く未来のために、環境、教育についてできる人が、できる時に無理なく活動できるボランティア組織）を発足、活動開始しました。

その翌年からコロナ感染者が日本国内にも蔓延し、行動の自由が制限されて長い忍耐を強いられました。そんな中私の絵本原画120作品を所蔵して下さっている聖徳学園理事長から聖徳大学東京三田新キャンパスの「環境デザインのアドバイザー」（故利根山光人画伯、流政之・彫刻家の後継）を委嘱されました。その仕事始めとして今年3月に聖徳大学東京三田キャンパス・ホールの緞帳（幅11m x 高さ2.8m）と幼稚園舎入口のウィンドウ画（幅10m x 高さ2.5m）を完成させました。

また今年私の処女作『80日間日本一周・フーテンすってんてん』（牧書店/1973年刊）が出版され、復刻版（桜町書院/2017年刊）も加わり50年の長寿本になりました。

また高円宮妃久子殿下と共作絵本『氷山ルリの大航海』（講談社/ UNICEF後援/1998年）が出版25周年を迎え、9月22日に聖徳大学にて聖徳学園創立90周年記念特別展示＜飛鳥 童の絵本原画の世界展＞の開会式典とレセプションが原作者・高円宮妃久子殿下ご臨席のもと、野

田聖子元郵政大臣、駐日カナダ大使みゆきマッケイ夫人、林 裕子様（林 芳正前外務大臣夫人）他の多くの皆様にご出席下さり、盛会裡に終わりました。

今年から来年にかけて『冰山ルリの大航海』出版25周年記念行事が多くの都市で予定されています。香川県内の学校訪問も始めたいと考えています。



チビッコたちがギャラリーに来館



開会式典でのテープカット
(左より)

高円宮妃久子殿下
齋藤 健/前法務大臣
川並弘純/聖徳大学理事長
飛鳥 童
野田聖子/元郵政大臣・聖徳大学名誉学長



高円宮妃久子殿下に作品説明をする



飛鳥 童 (あすか わらべ) さん

高松市出身。

代表作の一つで高円宮妃久子殿下共作『冰山ルリの大航海』は、13ヵ国語に翻訳出版され、ミュージカル上演、カナダの教科書にも多数採用される。

2019年に帰国し、現在は故郷の高松で創作活動を行う。

◇KAGAWA アンバサダーについて

香川の魅力を世界へ発信するとともに、本県の諸課題に対する情報提供、活動、提言等を行っていただく大使です。主に世界を舞台に活躍している香川県出身者や県にゆかりのある方で、各界から候補者の推薦を受け、識者による選考後、知事が委嘱しています。

◇KAGAWA アンバサダーからのお便りについて

県民の方々に KAGAWA アンバサダー事業及び県の国際化の推進について、より理解を深めていただくことを目的に、世界を舞台に活躍されている KAGAWA アンバサダーの方々から在住国や御自身の活動等について御紹介いただくものです。